

輕皇子、安騎の野に宿る時に、柿本朝臣人
麻呂の作る歌

四五番

やすみしし 我が大君 高照らす 日の皇子 神
ながら 神さびせすと 太しかす 京を置きて
こもりくの 泊瀬の山は 真木立つ 荒き山道を
岩が根 禁樹押しなべ 坂鳥の 朝越えまして
玉かぎる 夕さり来れば み雪降る 安騎の大野
に はたすすき 小竹を押しなべ 草枕 旅宿り
せず 古思ひて